

# 女性 リレートーク

## 土木とのかかわり

株式会社北陽 営業推進部

● 飯田 いいた 宏美 ひろみ



### 自己紹介

#### 「環境保全への関心と農業土木への道」

土地改良に関わる業界に身を置いて、随分と長い時間が経ちました。まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。

私は、田舎の自然豊かな地域で生まれ育ちました。子どものころは川で魚を捕まえたり、山で遊んだり、季節の移ろいを肌で感じるような生活

が当たり前でした。そ

の経験から、環境保全や自然との共生に関心を持つようになり、進路を考える際には自然環境に関わる分野に進みたいと思うようになりました。

大学では農業土木を学びました。環境を守るだけでなく、人々の生活の基盤を支える農業土木は、私にとって非常に魅力的な分野でした。農村の



休日の様子（趣味のダンスレッスン）

暮らしを支える水路やため池といった施設が、どのように設計・維持されているのかを学びながら、「地味だけれど、とても大切な仕事だ」と実感する日々でした。

そしてもうひとつ、大学時代に始めたのがストリートダンスです。ダンスは、私にとって特別な趣味です。日々の生活の中で楽しみながら、今も続けています。踊ることで仕事の合間にリフレッシュし、新たなエネルギーを得ることができます。

### 職場での経験

#### 「コンサルタントから商社の技術担当へ」

大学を卒業後はコンサルタント会社に就職し、農業土木の設計に携わる仕事に従事していました。地域の現場を回り、設計計画を立てる日々はやりがいもありましたが、結婚を機にもう少し違った立場から現場と関わりたいという思いが芽生え、現在の土木資材商社へと転職しました。

今は、商社の技術担当として、土木資材の提案や製品選定、現場対応などに携わっています。商社と聞くと「営業」のイメージが強いかもしれませんが、実際には非常に技術的な知見が求められます。たとえば、「この現場にはどのプレキャスト製品が合うか」「既存構造物との取り合いは大丈夫か」「工期やコストに影響しないか」など、工事の計画段階からコンサルタントやメーカー、施工業者と一緒に検討することも多くあります。

近年は特に、「二次製品を積極的に使うように」との要請が強まっており、プレキャスト製品を活用する場面が増えていきます。これにより工期の短縮や品質の均一化が期待される一方、予算が増えない中での資材高騰、人手不足など、現場を取り巻く環境は決して楽ではありません。そうした制約の中



資材の確認（資材仮置き場にて）

でも「どうか工夫して現場を収める」ために、商社の果たすべき役割は益々重要になってきていると感じています。

商社の立場は、設計と施工のちょうど間にあります。だからこそ、双方の思いや要望を調整することができます。その柔軟さと調整力が、この仕事の魅力でもあり、難しさでもあると感じています。特に、公共事業の現場は「前例」や「標準」に沿った進め方が重視される一方で、現場ごとに異なる制約があるのも事実です。そこに、少しでも実情に合った提案ができた時には、大きなやりがいを感じます。

### — これからの働き方について

私たちが置かれている建設業界全体には、今もなお大きな課題があります。まず人手不足です。若い人がなかなか入ってこない。入ってきてても、続かない。加えて、技術の継承も追いついていない。ベテランが減っていく中で、現場力をどう維持するかは深刻な問題です。

そして、女性が働き続けられる環境が整ってきたとはいえ、建設業界ではまだまだ男性中心の風土が根強く残っています。私自身も最初のころは「女性で大丈夫？」という声をいただくこともありましたが、でも、性別に関係なく、しっ

かりと現場を支える知識と姿勢があれば、自然と信頼は得られると今は感じています。

働き方も技術者としてのキャリアの築き方も、もっと多様であっていいのではないかと思います。私自身、コンサルタント会社から現在の商社へ転職していますし、結婚、出産、子育て、親の介護など、家庭事情による働き方への影響もあります。そういう中でも、それぞれのライフワークに合わせて自分らしいスタイルで働き続けていけるということを自身の姿を通して後輩たちに見せることができたらと思っています。

土地改良の仕事は、人目に触れることは少ないかもしれませんが。しかし、それぞれの暮らしの「当たり前」を支えているという意味で、私はこの仕事に誇りを持っています。

技術者という道は、専門性を深めることで面白さが増していきますし、挑戦することで新しい世界が広がります。でも、その歩み方は人それぞれで、一人ひとりに合ったスタイルがあると思います。だからこそ、自分に合ったペースで進むことが何より大切だと感じています。これから技術者として歩んでいく皆さんが、無理なく、自分らしく働ける道を見つけることができればと思っています。

飯田さんからのバトンをしっかり受け取りました。

次号では、現場監督として私が経験した現場や土木の魅力についてお話ししたいと思います。よろしくお話しします。

株木建設株式会社 茨城本店 土木部

宇野 舞美

